

コラム 36—南京事件における中国の教科書の歪曲

南京事件について、中国の教科書では、次のような歪曲した記述となっています。

「帝国主義は中国での反動支配を守るため革命を破壊しようとした。3月24日、北伐軍は南京を占領した。その日の夜、イギリス、アメリカ、日本などの帝国主義は、狂ったように南京城を砲撃し、中国軍民2千人余りを死傷させた」

中国兵の蛮行は一行も記さず、列国は理由なく南京を砲撃したかのごとく書き、また砲撃を「夜」とすることによって、無差別砲撃の印象を与えようとしている（実際の砲撃は午後3時40分から約1時間）。その上、完全無抵抗主義を貫いた日本も砲撃に参加したと嘘を書き、中国側死傷者数も60倍にもふくらませており、まさに歴史捏造の好例というべきものであります。